

第7回日本腎栄養代謝研究会学術集会・総会

共催企画「CKD食事療法に関するアンケート調査」

結果報告



Medical Nutrition Council of Japan

日本メディカルニュートリション協議会

腎臓病領域普及啓発委員会

第7回日本腎栄養代謝研究会学術集会・総会

大会長： 井上 啓子

(至学館大学健康科学部 栄養科学科)

事務局長： 松岡 哲平

(医療法人社団 大誠会)

会期： 2019年 7月27日(土)・28日(日)

会場： 名古屋国際会議場

4号館1階白鳥ホール

アンケート調査実施要綱

アンケートの目的

- ◆CKD食事療法を実践している医療従事者(主に医師、管理栄養士・栄養士)を対象に、CKD食事療法実践の現状を把握し、課題を明確にする。
- ◆CKD食事療法に関する意見、要望を調査し、その結果をCKDの中でも特に保存期腎臓病食事療法の効果的実践に繋げる。

対象者

- ◆第7回日本腎栄養代謝研究会学術集会・総会の参加者

実施方法

- ◆学術集会当日、参加登録受付において、アンケート調査票を参加資料等と共に来場者に配布する。アンケート調査票は「医師の方用」と「医師以外の方用」に区別して配布する。
- ◆会場内にて、アンケート調査の実施をアナウンスする。
- ◆アンケート調査票は、日本メディカルニュートリション協議会展示ブースにて回収する。

アンケート調査票質問項目

回答者情報

- ・勤務地（都道府県）
- ・職種
- ・経験年数
- ・勤務施設の種類

食事療法アンケート質問項目

- A：勤務先施設の栄養指導の取り組み方
- B：直近1ヵ月間の栄養指導実施人数と指導状況
（医師の場合は、診察した患者数と栄養指導の指示状況）
- C：CKD食事療法を指示する際の年齢の目安
- D-1：栄養指標項目の優先順位
＜保存期・透析導入阻止の場合＞ ＜保存期・全身管理の場合＞ ＜透析期の場合＞
- D-2：保存期・高齢者のたんぱく質制限の必要性
- E：栄養指導する際の課題や障害
- F：腎臓病教室、調理実習、患者会の実施状況
- G：食事療法に利用される調整食品の認知度と利用状況
- H：腎臓病療養指導士について
- I：食事療法の普及啓発に必要なこと

アンケート配付人数と回答者数

アンケート配布人数

医師:34名、医師以外:309名 計:343名

アンケート回答者数

医師:9名(回収率:24%)

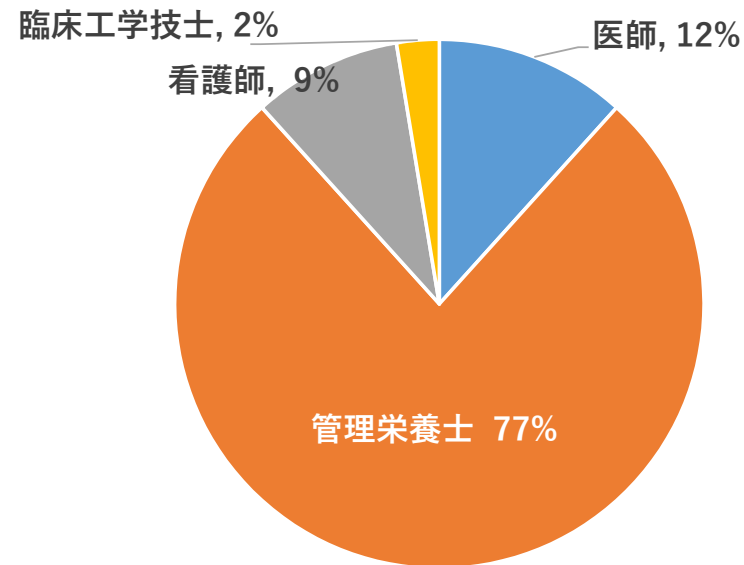
医師以外:68名(回収率22%)

計:77名(回収率24%)

回答者情報

職種

職種	人数
管理栄養士	59
医師	9
看護師	7
臨床工学技士	2



経験年数

医師9名の平均年数
26.9年
(14~40年)

医師以外68名の平均年数:
15.7年
(0~35年)

回答者情報

施設種類

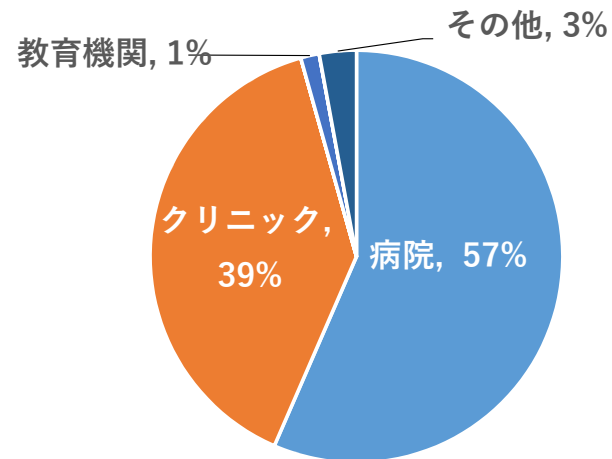
医師

施設	人数
病院	5
クリニック	4

医師以外

施設	人数
病院	39
クリニック	27
教育機関	1
その他	2

※クリニックの1名は教育機関と重複

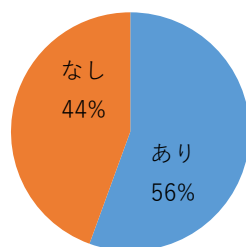


A:勤務先施設の栄養指導への取り組み方

NSTの有無

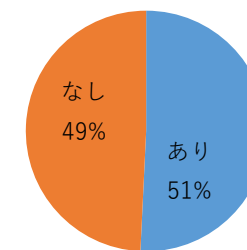
【医師】

	人数
あり	5
なし	4



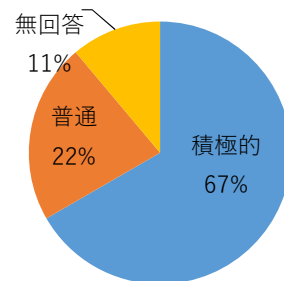
【医師以外】

	人数
あり	32
なし	30

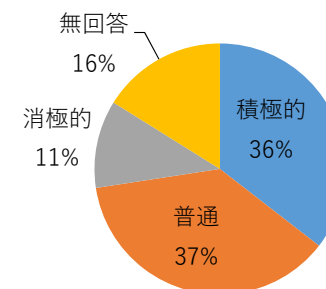


保存期CKD患者への栄養指導

	人数
積極的	6
普通	2
消極的	0
無回答	1



	人数
積極的	22
普通	23
消極的	7
無回答	10



A: 勤務先施設の栄養指導への取り組み方

「医師以外」の回答結果を、病院と開業医に分けて、各々NSTの有無により栄養指導に対する姿勢を比較した。

姿勢	HP						GP						全体					
	NSTあり		NSTなし		HP全体		NSTあり		NSTなし		GP全体		NSTあり		NSTなし		全体	
積極的	11	35.5%	3	50.0%	14	37.8%	1	100.0%	7	29.2%	8	32.0%	12	37.5%	10	33.3%	22	35.5%
普通	15	48.4%	1	16.7%	16	43.2%	0	0.0%	7	29.2%	7	28.0%	15	46.9%	8	26.7%	23	37.1%
消極的	1	3.2%	1	16.7%	2	5.4%	0	0.0%	5	20.8%	5	20.0%	1	3.1%	6	20.0%	7	11.3%
不明	4	12.9%	1	16.7%	5	13.5%	0	0.0%	5	20.8%	5	20.0%	4	12.5%	6	20.0%	10	16.1%
合計	31		6		37		1		24		25		32		30		62	

χ² 検定により

HPでは回答に有意差あり (p = 0.005) GPでは回答に有意差なし (p = 0.706)

全体ではNSTありで回答に有意差あり (p = 0.003)

NSTなしで回答に有意差なし (p = 0.607)

B:直近1ヵ月間に診察した患者数と栄養指導の指示状況 (医師)及び栄養指導実施人数と指導状況(医師以外)

「医師」と「医師以外」において、CKDステージ別の患者数を集計

		医師		
	1,2,3(a,b)	4,5	5D	合計
HP	100	99	240	439名
	22.8%	22.6%	54.7%	
GP	20	30	750	800名
	2.5%	3.8%	93.8%	
全体	120	129	990	1239名
	9.7%	10.4%	79.9%	

		医師以外		
	1,2,3(a,b)	4,5	5D	合計
HP	200	142	361	703名
	28.4%	20.2%	51.4%	
GP	51	63	825	939名
	5.4%	6.7%	87.9%	
全体	251	205	1186	1642名
	15.3%	12.5%	72.2%	

◆保存期患者では
ステージ1, 2, 3 (a, b)、
ステージ4, 5ともに
HPの割合が多い。
◆病院、開業医とも
に 5D=透析患者が
最も多い。

B:直近1ヵ月間に診察した患者数と栄養指導の指示状況

【医師】

「医師」において、1239名の患者に対する栄養指導指示の有無を集計

ステージ	全患者			栄養指導指示なし			栄養指導指示あり		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C
HP	100	99	240	20	37	145	80	62	95
				20.0%	37.4%	60.4%	80.0%	62.6%	39.6%
GP	20	30	750	10	5	420	10	25	330
				50.0%	16.7%	56.0%	50.0%	83.3%	44.0%
計	120	129	990	30	42	565	90	87	425
				25.0%	32.6%	57.1%	75.0%	67.4%	42.9%
	計	1239		計	637	51.4%	計	602	48.6%

A:ステージ1, 2, 3 (a,b) B:ステージ4,5 C:ステージ5D

B:直近1ヵ月間に診察した患者数と栄養指導の指示状況

【医師】

「医師」において、1239名の患者に対するCKDステージ別栄養指導の指示状況を集計

CKDステージ別栄養指導

ステージ	栄養指導指示あり												計
	たんぱく指示なし			0.9以上			0.7~0.8			0.6以下			
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
HP	0	0	40	5	0	55	75	57	0	0	5	0	237名
	0.0%	0.0%	16.9%	2.1%	0.0%	23.2%	31.6%	24.1%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	
GP	10	5	10	0	0	320	0	20	0	0	0	0	365名
	2.7%	1.4%	2.7%	0.0%	0.0%	87.7%	0.0%	5.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
計	10	5	50	5	0	375	75	77	0	0	5	0	602名
	1.7%	0.8%	8.3%	0.8%	0.0%	62.3%	12.5%	12.8%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	
	計	65	10.8%	計	380	63.1%	計	152	25.2%	計	5	0.8%	

A:ステージ1, 2, 3 (a,b) B:ステージ4,5 C:ステージ5D

B:直近1ヵ月間に診察した患者数と栄養指導の指示状況

【医師以外】

「医師以外」において、1534名の患者に対するCKDステージ別栄養指導の指示状況を集計

CKDステージ別栄養指導

ステージ	栄養指導指示あり												計
	たんぱく指示なし			0.9以上			0.7～0.8			0.6以下			
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
HP	40	11	94	29	0	255	121	83	10	10	48	2	703名
	5.7%	1.6%	13.4%	4.1%	0.0%	36.3%	17.2%	11.8%	1.4%	1.4%	6.8%	0.3%	
GP	2	0	100	14	0	668	33	32	55	2	31	2	939名
	0.2%	0.0%	10.6%	1.5%	0.0%	71.1%	3.5%	3.4%	5.9%	0.2%	3.3%	0.2%	
計	42	11	194	43	0	923	154	115	65	12	79	4	1642名
	2.6%	0.7%	11.8%	2.6%	0.0%	56.2%	9.4%	7.0%	4.0%	0.7%	4.8%	0.2%	
	計	247	15.0%	計	966	58.8%	計	334	20.3%	計	95	5.8%	

A:ステージ1, 2, 3 (a,b)

B:ステージ4,5

C:ステージ5D

C:CKD食事療法を指示する際の年齢の目安

【医師】

その判断がわかる年齢はおおよそ何歳くらいか。

9名が回答

平均 71.9歳 (65歳 ~ 80歳)

年齢で分けられない場合はどのように判断するか。

1名が記入

特に年齢で分けていない。

C:CKD食事療法を指示する際の年齢の目安

【医師以外】

その判断がわかる年齢はおおよそ何歳くらいか。

29名が回答

平均 70.7歳 (60歳 ~ 90歳)

年齢で分けられない場合はどのように判断するか。

23名が記入

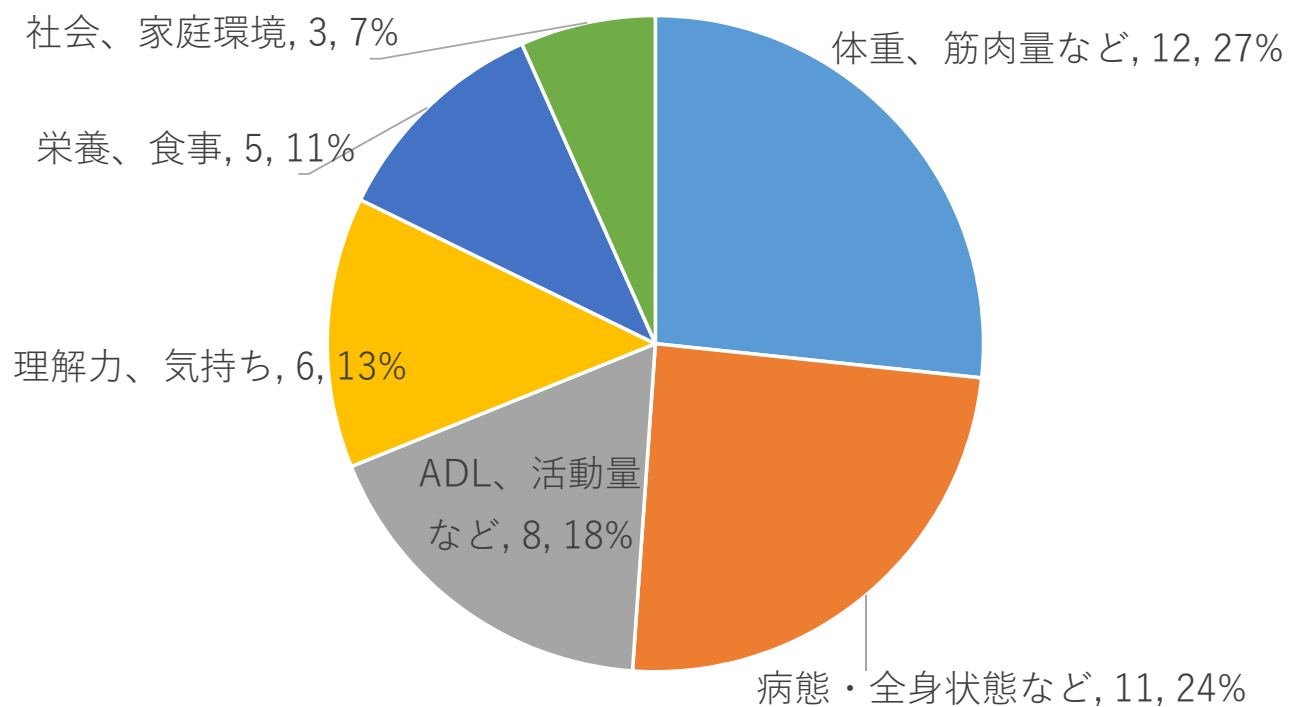
体重・体格・活動量・ADL・身体活動状況・BMI・
体組成・筋力（握力）・BMI・体重・筋肉量・ADL

C:CKD食事療法を指示する際の年齢の目安

年齢で分けられない場合はどのように判断するか。

【医師以外】

設定したキーワードの出現回数と出現率

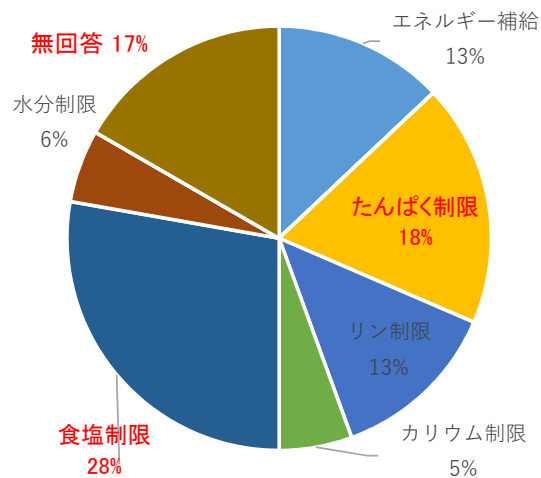


D-1: 栄養指標項目の優先順位

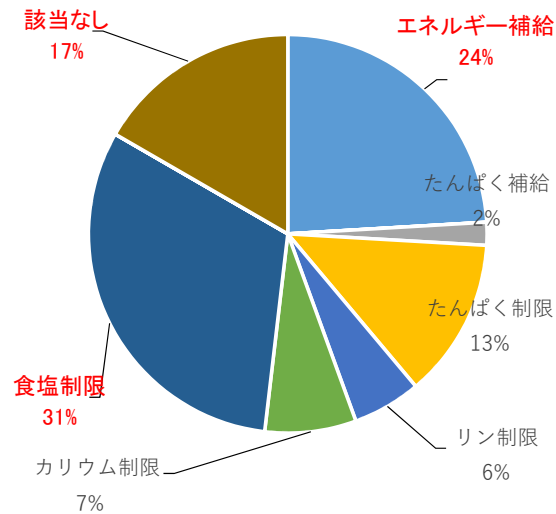
重要度数による比較

【医師】

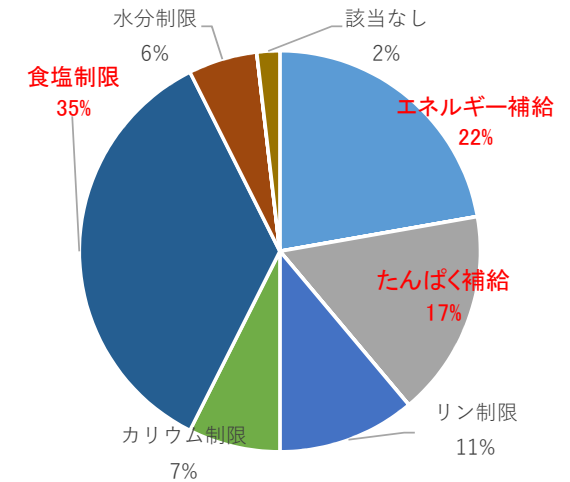
保存期・透析導入阻止(遅延)を主目的とする場合



保存期・全身管理を主目的とする場合



透析期の栄養指導の場合

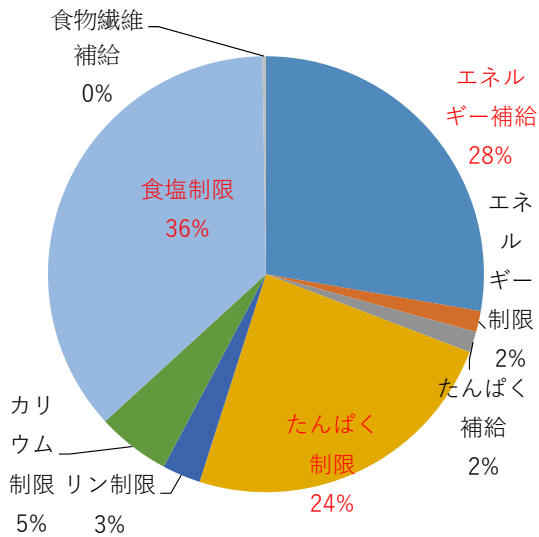


D-1: 栄養指標項目の優先順位

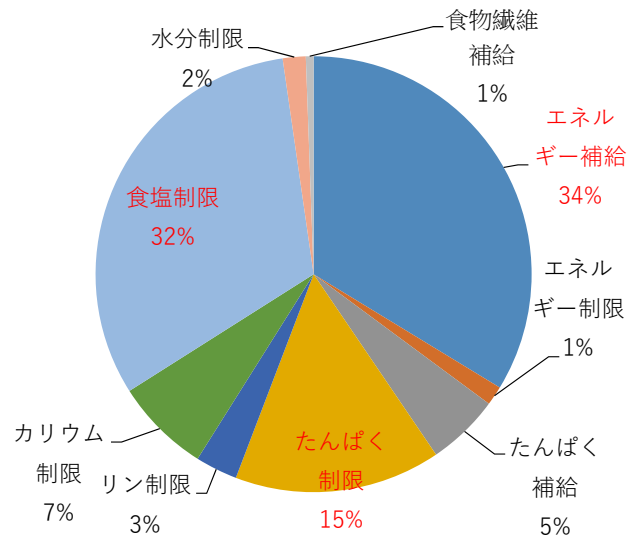
重要度数による比較

【医師以外】

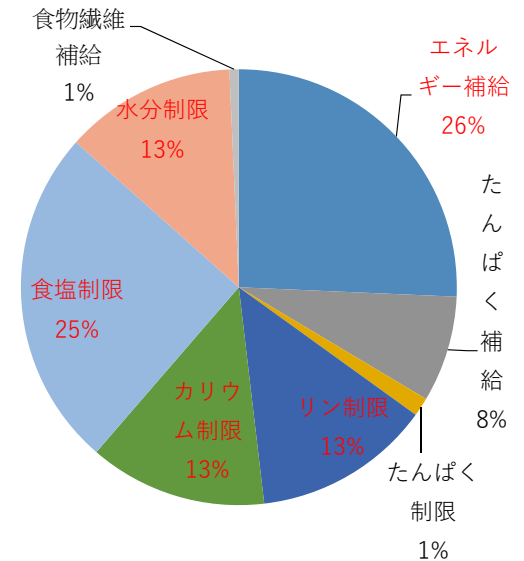
保存期・透析導入阻止(遅延)を主目的とする場合



保存期・全身管理を主目的とする場合



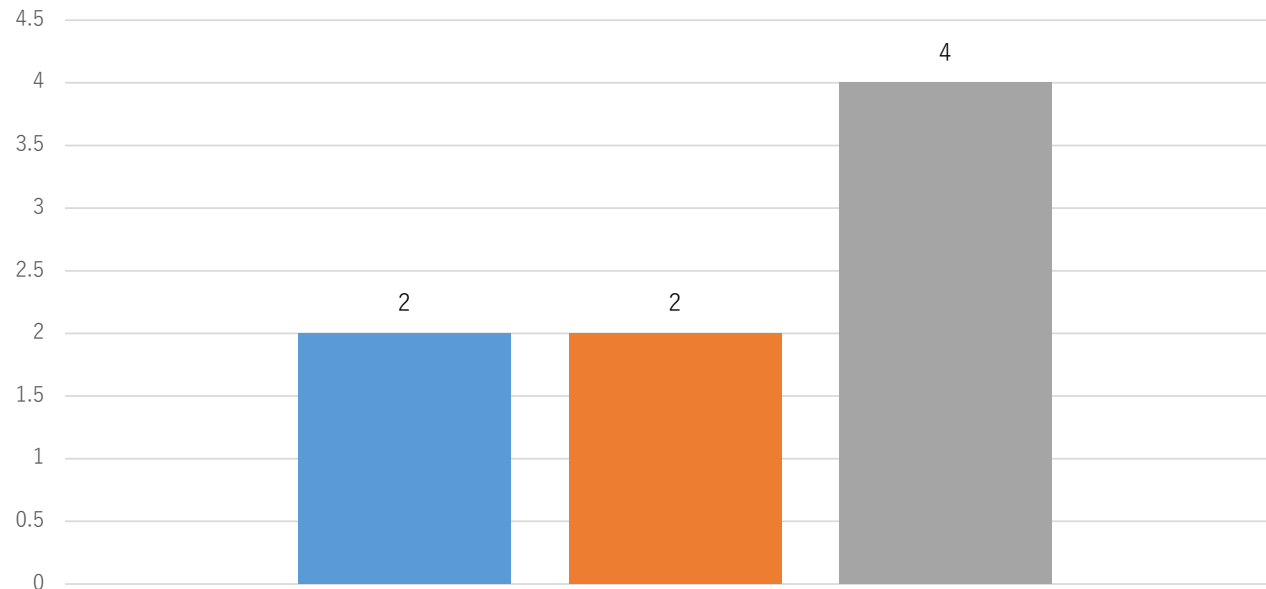
透析期の栄養指導の場合



D-2: 保存期・高齢者のたんぱく質制限の必要性

【医師】

回答者 8名

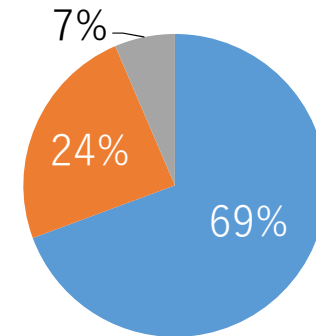
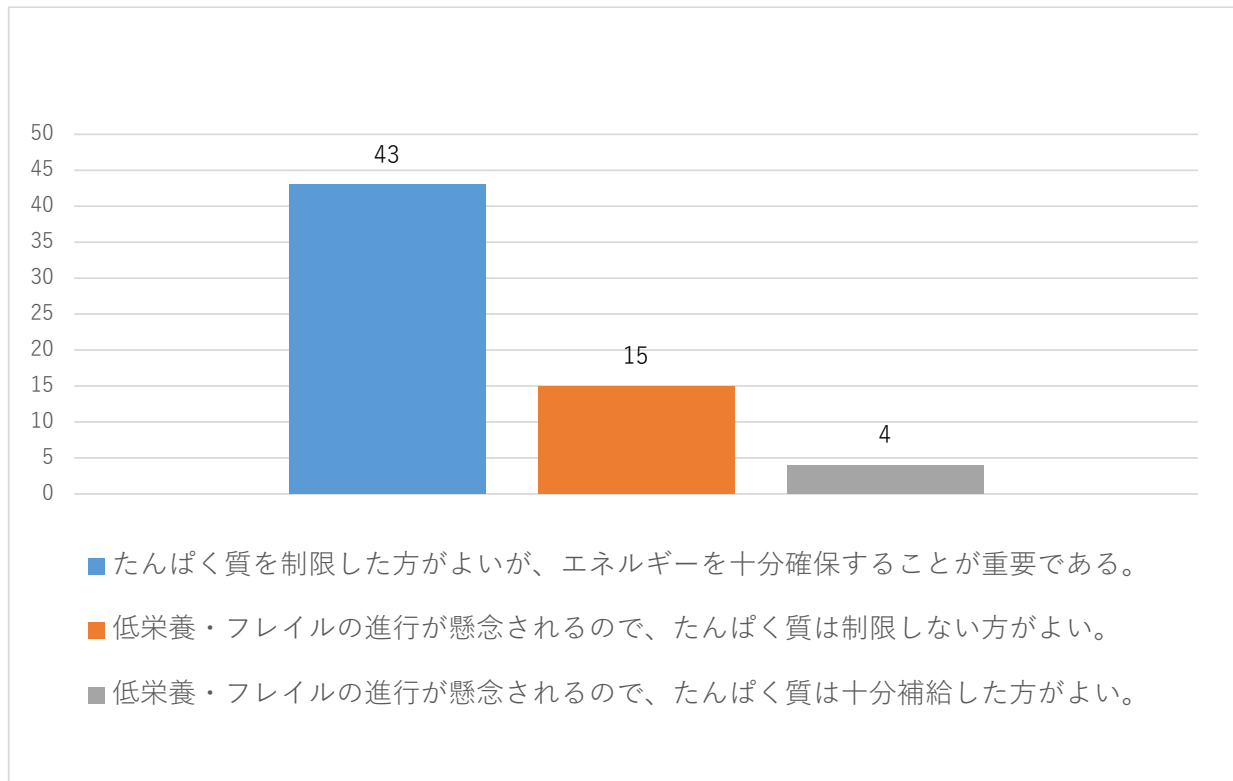


- たんぱく質を制限した方がよいが、エネルギーを十分確保することが重要である。
- 低栄養・フレイルの進行が懸念されるので、たんぱく質は制限しない方がよい。
- 低栄養・フレイルの進行が懸念されるので、たんぱく質は十分補給した方がよい。

D-2: 保存期・高齢者のたんぱく質制限の必要性

【医師以外】

回答者 62名



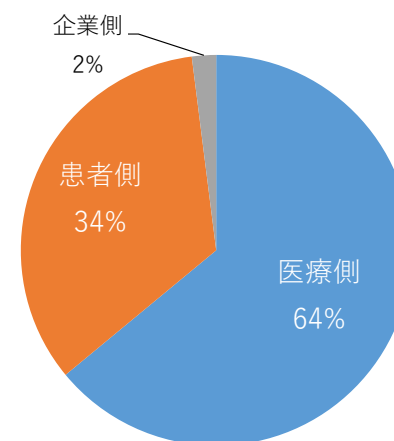
E: 栄養指導での課題や障害(自由記載)

【医師以外】

記載頂いた方は32名

記載内容を下記の通り分類して整理（問題先が重複している場合あり）

医療側の問題		患者側の問題		企業の問題	
スキル	18	理解	6	技術	1
システム	8	経済	4		
連携	6	家族	5		
		支援	2		
計	32		17		1



G: 食事療法に利用される調整食品の認知度と利用状況

【医師】

認知度	人数
知っている	9
知らない	0

施設での使用(採用)

	人数	使用している食品	回答数	使用率 (%)
有	7	ごはん	2	17
無	2	パン	0	0
		レトルトおかず	0	0
		冷凍おかず・弁当	2	17
		濃厚流動食	1	8
		エネルギー補給食品	6	50
		その他	1	8

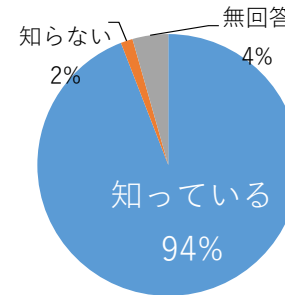
栄養指導での紹介

	人数	紹介している食品	回答数	紹介率 (%)
有	7	ごはん	3	15
無	2	パン	2	10
		レトルトおかず	2	10
		冷凍おかず・弁当	2	10
		濃厚流動食	1	5
		エネルギー補給食品	7	35
		その他	3	15

G: 食事療法に利用される調整食品の認知度と利用状況

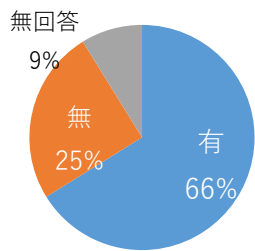
【医師以外】

認知度	人数
知っている	64
知らない	1
無回答	3



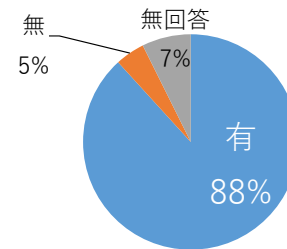
施設での使用(採用)

	人数	使用している食品	回答数	使用率 (%)
有	45	ごはん	25	56
無	17	パン	12	27
無回答	6	レトルトおかず	2	4
		冷凍おかず・弁当	4	9
		濃厚流動食	27	60
		エネルギー補給食品	38	84
		その他	1	2



栄養指導での紹介

	人数	紹介している食品	回答数	紹介率 (%)
有	60	ごはん	38	63
無	3	パン	27	45
無回答	5	レトルトおかず	33	55
		冷凍おかず・弁当	43	72
		濃厚流動食	30	50
		エネルギー補給食品	53	88
		その他	3	5



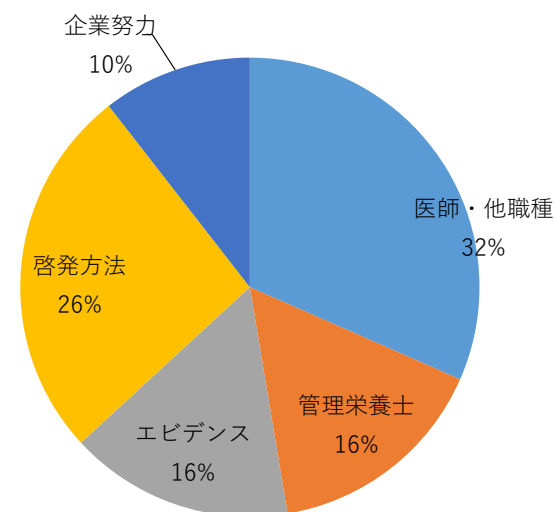
I: 食事療法の普及啓発に必要なこと(自由記載)

【医師以外】

記入頂いた方は21名

記入内容を下記の通り分類して整理

	件数
医師、他職種に関わる内容	6
管理栄養士自身の内容	3
エビデンスに関する内容	3
啓発方法についての内容	5
企業努力	2
課題のみの内容	2



井上先生による総括

- 医師に関してはn数が少なく、腎臓病食事療法に対する考えを確認するに至らなかった。
- 管理栄養士による保存期患者456名に対する栄養指導では、たんぱく質は0.7~0.8/ g /kg/日の食事療法指導が269例（59.0%）に実施されていた。
また、0.6/ g /kg/日以下も91例（20.0%）に指導されていた。
- * 腎臓病食事療法には低たんぱく食事療法の必要性を認識して栄養指導を実施していることが改めて確認された。
- 栄養指標項目の優先順位では透析阻止には食塩制限、エネルギー補給、たんぱく制限が重要と認識されていた。
- 全身管理を目的としたCKD食事療法でもエネルギー補給を基本としたたんぱく質過剰摂取回避が理解されていた。